

モダンダンスのイメージにおける 審美性因子について — ソロパートを抽出して —

中京女子大学 猪崎 弥生
筑波大学名誉教授 松浦 義行

1 研究目的

舞踊におけるイメージを意味空間という概念で捉えれば、目に見えないイメージが因子分析という手法で具体化され、抽出された因子を解釈することによって鑑賞者に伝達されたイメージを言語の持つ情緒的内包的意味として明らかにでき、発信元の舞踊そのものの特性を探求することができると考えられる。そこで、本研究の目的は、古典バレエ13作品、モダンバレエ8作品、モダンダンス7作品、日本舞踊4作品、韓国舞踊4作品の36作品におけるソロパートを対象にしたイメージ調査を通して、その中でモダンダンスの作品から鑑賞者が享受したイメージの中で抽出された舞踊における美的特性を表しうる因子とはどのようなものであるのかを明らかにすることである。

2 研究方法

①イメージ調査の対象作品は、古典バレエ13作品を含む36作品である。それらの舞踊ジャンルは、古典バレエ、モダンバレエ、モダンダンス、日本舞踊（地唄舞）、韓国舞踊の5種類とする。②36舞踊作品のイメージ調査／舞踊のイメージ測定法の尺度に注目した研究（頭川ら、1980）から導き出された舞踊独自のイメージ測定法の評定尺度構成における46個の形容詞対を用いて調査用紙を作成した。被験者は、大学スポーツ専攻女子学生128名、実験は、2001年6月～7月にかけて5回行われた。③36舞踊作品の因子分析／36舞踊作品において作品別に、46評定尺度相互間の相関係数を求めた。ついで、この相関行列（46×46）に主因数解を適用し、Normal Varimax 基準による直交回転を施し、各作品におけるイメージ因子構造の考察を行った。④因子の検討／36作品の中で多くの作品で抽出された因子の中から本研究で着目する因子を検討した。⑤審美性因子について／全作品における抽出因子の頻度を考察することによって、34作品で抽出された審美性因子に着目した。そこで、モダンダンスにおける7作品ごとの審美性因子負荷量をデータとして7作品間の相互相関係数を求めました。得られた相関行列（7×7）に主因数解を適用し、Normal Varimax 基準による直交回転を施し、作品を分類し、作品の審美性因子の特性を考察した。⑥作品グループの検討／抽出された因子のうち貢献度の高い2因子をもって2次元因子空間を構成し、各作品の空間における布置から作品間のユークリッドの距離を求めた。この距離の比較から⑤による作品グループの分類をさらに検討した。⑦古典バレエとモダ

ンダンスにおける審美性因子の検討／古典バレエにおける審美性因子の特性についての先行研究の成果を受けて、モダンダンスの審美性因子と古典バレエの審美性因子との相関をみることによってモダンダンスの審美性因子の特性を検討した。

3 結果と考察

7作品の審美性因子における因子負荷量をデータとして作品間の相関係数を求め、因子分析を行った結果（表1）、作品は3つのグループに分類されると

表1 モダンダンスにおける審美性因子の因子負荷量行列

	F 1	F 2	共通性
1 春の祭典	.200	-.787*	.659
2 夜の旅	.085	.821*	.681
3 広場の孤独	.313	-.737*	.641
4 エロディマード	.839*	-.219	.751
5 月の誘惑	.777*	-.286	.685
6 追憶の花	.822*	-.271	.749
7 迷宮への使者	.773*	.218	.645

貢献度	2.7428	2.0861
貢献度（全分散）	38.9263	29.8017
貢献度（共通性）	56.6382	43.3618

考えられる。第1因子の特性を持つグループ、第2因子の負の負荷量が高い特性を持つグループ、第2因子の正の負荷量が高い特性を持つグループである。次に抽出された2因子の負荷量を2次元座標に布置させることによって、作品間の距離を考察した結果、第1因子グループ、第1因子の特性を持つ「迷宮への使者」、第2因子グループ、第2因子の特性を持つ「夜の旅」に分類された。

4 結論

モダンダンス7作品のソロパートから抽出された審美性因子は、優美性を持つ審美性、好嫌性を持つ審美性、女性的で清らかでやわらかいイメージを持つ審美性など4つの特性に分類された。さらに、先行研究で明らかになった古典バレエにおける審美性因子と比較検討したところ、「月の誘惑」、「追憶の花」、「エロディマード」の審美性因子は古典バレエの12作品との相関は中程度であることから、古典バレエにおける審美性との類似性が見られた。「春の祭典」、「広場の孤独」の審美性因子は、「月の誘惑」、「追憶の花」、「エロディマード」よりは低い相関関係を示したが、古典バレエにおける審美性因子とやや類似性が見られた。「夜の旅」において抽出された審美性因子は、古典バレエの審美性因子の特性とは大きく異なるものであった。「迷宮への使者」の審美性因子も古典バレエにおける審美性因子と特性が異なると考えられる。今後の課題としては、「夜の旅」、「迷宮への使者」における審美性因子は因子の解釈に関してさらなる検討を加えなければならないと考えられる。